

アジア国際社会福祉研究所は 開所 8 ヶ月が経ちました！

世界に” Shukutoku”が広まっています

2016 年最後の kara は 4 月開所以来、アジア国際福祉研究所を訪れた人々を振り返ります。日本に興味を持つ多くのソーシャルワーク研究者たちが本研究所を来訪しました。

5 月に応募が始まった「ビジティング・リサーチャー論博プログラム

初代ビジティングリサーチャーのワンワディ・ポンポクシン氏が 10 月に来日。11 月 26 日の淑徳大学社会福祉学会でも基調講演をしました。



7 月、ブラジルから 2 名の研究者が初来日。初めての国日本での最初の訪問先として淑徳大学を選んでくれました。

(写真左からマリア・ド・ロサリオ・デファティマ・エ・シルバ教授（ピアウイ・フェデラル大学）、戸塚総合福祉学部長、アナ・ロハス・アコスタ教授（サンパウロ・

フェデラル大学)

7月末、高齢者福祉を学ぶためにタイから来日した修士課程の学生たちが淑徳共生苑を訪問し本学教員と交流しました。

(写真後方中央:山口光治教授、

左がプチョン・セナヌッチ准教授(フアシュウ・チャレルムプルキエット大学))



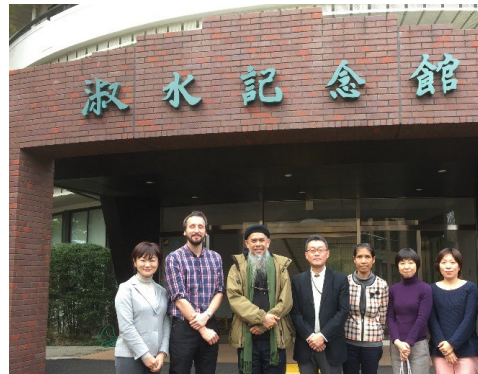
12月、スリランカ訪問団が来校し今までの協力の感謝と新設大学開学式への招待がありました。



また論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・ハタ教授(マレーシアサインズ工科大学)が11月に来日し、世界に類を見ない本学プログラムに期待をこめ協力を約束しています。

来訪した研究者たちは淑徳大学とアジア国際社会福祉研究所に大きな興味を持ち、Facebook等でShukutokuの名前を発信しています。

研究所は2017年3月22-24日、アジア仏教主要国から多数のゲストスピーカーを迎えて第2回国際フォーラムを開催します。こちらも御期待ください。



◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。